

兒島惟謙 こじま けん 裁判官。大保八年二月一日伊豫國宇和島生れ。明治四十一年七月一日没（一八七〇—一九〇八）。舊姓金子・豊島、字有終、幼名雅次郎、通稱豊島五郎兵衛、備後屋三郎兵衛、備後三郎、兒島謙藏。號天救園、天救園主人、有終居士。慶應元年脱藩して國事を奔走。明治四年司法省出任、各地の裁判所所長等を歴任し、一十四年大審院院長。同年來日中のロシア皇太子を襲つた津田三藏の、政府は對ロシア關係を憂慮して皇室犯による死刑を迫ると、一般人の謀殺未遂罪を適用して無期徒刑とし、司法權の獨りを守つた。のち貴族院議員、衆議院議員。

著書 『大津事件顛末録』（花井宜藏校、昭和六年十一月十五日 春秋社）、『大津事件手記』（昭和十九年一月十日築地書店）、『大津事件の誌』（家永二郎編注、昭和四十六年五月二十八日平凡社）、『東洋文庫』等。文献の、大場茂馬著『湖南事件と大浦正護事件（憲政の危機と刑政の廢絶）』（大正五年二月十二日旬刊、東京堂書店他發賣）、沼波瀟著『護法の神兒島惟謙』（大正十五年五月十一日修文館）、沼波瀟著『大津事件の烈女 島山勇子』（大正十五年十一月十五日書院）、原田光二郎著『護法の巨匠 兒島惟謙と其時代』（昭和十五年九月一日旬刊、文光堂書店）、黒川鍋太郎『島山勇子の生涯を憶ふ—純忠愛國の烈婦』（昭和十六年八月二十五日旬刊、日本婦道協會）、原田光二郎著

『兒島惟謙』（昭和十八年五月二十一日愛媛・大政翼賛會愛媛縣支部



「愛媛先賢叢書・第一輯」）、尾佐竹猛著『露國皇太子 遭難 湖南事件』（昭和二十六年六月十五日岩波書店「岩波新書」）、黒川鍋太郎著『島山勇子

(大津事件—平和の護持、公敵身せる婦人の傳) □ (昭和二十五年五月
二十日千葉・倉切) 、 田畑忍著 □ 兒島惟謙 □ (昭和二十八年六月十五
日吉川弘文館「人物叢書」) 、 吉田繁著 □ 新編兒島惟謙 □ (昭和四十
年十一月四日大阪・關西大学出版部) 、 青野隆著 □ 兒島惟謙小伝 □ (昭
和五十五年五月十五日兒島惟謙先生銅像建立委員云) 等。